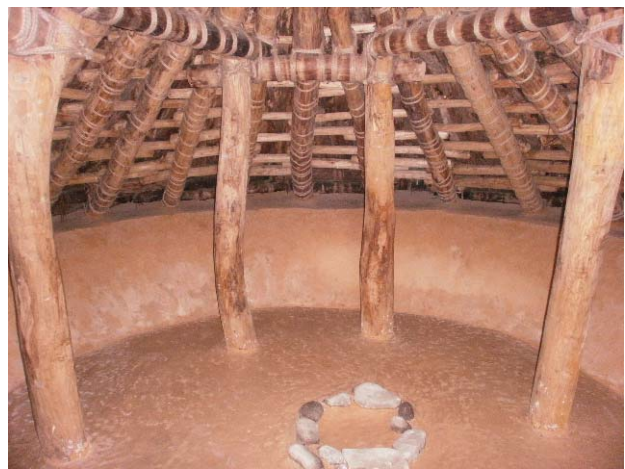


北代縄文通信

復原竪穴住居(復原建物5)の修理が完成しました！

復原竪穴住居を、考古学の研究成果に基づき、建築・土壌・木材・菌などの専門家の指導を得ながら、長寿命化を目的として修理しました。

床下の改修 竪穴住居は、地中の湿気が溜まるのはやむを得ません。特に土屋根の場合は、茅葺の竪穴住居や高床倉庫と比べて湿気が抜けにくい構造を持っています。今回の修理工事では、地下水が屋内に染み出さないよう、床や壁の外側に湿気や水を通さないシートを敷きまし



完成した復原竪穴住居(屋内)

た。その上に砂と砂利層を設けて排水性を良くしたうえで、小矢部産の赤土等を叩いて床をつくりました。現代住宅でも用いられる土間タタキという工法です。縄文時代以来、粘土を叩いてつくった住宅の床が、湿気対策となっていました。この工法は、史跡北代遺跡の発掘調査でも確認されています。

屋根の改修 屋根土に使われている黒色の腐植土は水を含みやすい性質があります。屋根土が水を含むと屋内の湿度が高まり、屋根材の腐朽要因になります。また、重くなることで屋根材を傷めることにもつながります。今回の修理工事では、屋根土を以前の半分以下に薄くして荷重を減らしました。表面も叩いて、雨水が屋根土内部に浸透しないようにしました。屋根土の下には防水シートを敷き、雨水は住居周囲の透水管から排水するようにしました。

屋根と壁には湿気を吸収したり、放出したりする素材も埋め込みました。叩いた床と同様の性質をもつため、屋内に溜まった湿気を屋根・壁・床が呼吸するように改修しました。

完成後は、屋根材や温湿度等の観察を続けています。日常点検を通して早期の劣化対策を講じることで、いつでも気持ちよく見学いただけるよう努めてまいります。

「どんぐり」について

北代縄文広場ボランティアの会
森 喜美

縄文時代の主要な食料であったとされる「どんぐり」について、以下にその概要を述べる。辞典（『日本国語大辞典』）では、次のように記されている。

「どんぐり（団栗、橡）」：ブナ科のカシ、クヌギ、ナラ、カシワなどナラ属の果実の総称を言うが、狭義にはクヌギの果実を指す。褐色の堅い果皮を持つ堅果で、下半分は椀状の殻斗（実を包むお椀形のもの）に包まれている。澱粉質に富むが、一般には渋味が強くそのままでは食べられない。採取や保存の容易さなどで、古代は重要な食料であった。

そこでブナ科で果実のなる木を調べてみると、表のとおりである。

表 ブナ科で果実のなる木（『新牧野日本植物圖鑑』により作成）

No.	名 前	生育範囲	常緑・落葉区分 高木・低木区分	果 実 (形・大きさ)	アク抜き 要・不要
①	クヌギ	全域の山地	落葉・高木	球形・径 2cm	要
②	コナラ	〃	〃	楕円形・1.5～2cm	〃
③	ミズナラ	〃	〃	卵状・長さ 2cm	〃
	アベマキ	山陽方面山地	〃	球形・大形	〃
④	カシワ	全域の山野	〃	球形・径 1.5 cm	〃
	ナラカシワ	中部以西の山地	〃	楕円形・長さ 2cm	〃
	ウバメガシ	暖地の山・海岸	常緑・低木	紡錘状・長さ 2cm	不要
	シラカシ	全域の山や民家	常緑・高木	楕円形・長さ 1.5cm	
⑤	アラカシ	宮城以南の山野	〃	楕円形・長さ 2cm	要
⑥	アカガシ	宮城以南の山地	〃	〃	〃
	ツクバネガシ	福島以南の山地	〃	楕円形・長さ 1.5cm	
	ウラジロガシ	宮城以南の山地	〃	楕円形	
	オキナワウラ ジロガシ	奄美大島～ 西表島	〃	卵状・長さ 3cm	
⑦	イチイガシ	暖地の山・海岸	常緑・大高木	楕円形・長さ 2cm	不要
⑧	ツブラジイ	西南暖地の山	常緑・高木	楕円形・長さ 1cm	不要
⑨	スタジイ	宮城以南の庭木	〃	楕円形・長さ 1.5cm	不要
⑩	マテバシイ	九州・沖縄自生	〃	長楕円・長さ 3cm	不要
	シリブカガシ	暖地の山・海岸	〃	楕円形・長さ 2cm	不要

この他にブナ科の実の成る木にはブナ、イヌブナ、クリなどがあるが、実の形がどんぐりと異なるため、表からは除外した。この表のうち縄文時代に利用され、遺存体が検出されているものはクヌギ、コナラ、ミズナラなど（No.①～⑩までのもの）10種類があるとされている。

この中から代表的な「クヌギ」と「コナラ」について詳細を述べる。

①クヌギ（橡、または櫟）

山林に多い落葉高木で、植林されることもある。幹は直立してそびえ、枝は多く、葉は繁り、大きなものは高さ 17m、直径は 60cm ぐらいになる。

葉はクリに非常に似ており、長さ 5～15cm、幅 2～4cm で 5 月頃に開花し、雄花は黄褐色で垂れ下がる。



堅果は大形でほぼ球形、径 2cm ぐらい、褐色で、これを俗にドングリと呼ぶ。堅果にはタンニンが含まれているため、渋くて少量なら食べることもできるが、通常はアク抜きをして食べられている。殻斗は大形でお椀形をし、トゲが鱗状に密生している。この木から良質の木炭がつくられ、池田炭やサクラ炭などと呼ばれている。

②コナラ（小櫓）

各地の山野に最も普通にみられる落葉高木で、植林されることもある。幹は直立して分枝し、大きいもので高さ 17m、直径 60cm にもなり、枝は細く、葉は長楕円形で長さは 5～12 cm。5 月頃に開花し雄花は黄褐色で垂れ下がる。



堅果は楕円形または円柱状長楕円形、長さは 1.5～2cm で、殻斗は皿状で薄緑色、外面に鱗状に小片が密着している。この木からも良質の木炭がつくられる。

これらの落葉広葉樹になる堅果はタンニンを 1～5%ほど含んでおり、渋くてアク抜きをしなければ食用にならない。アク抜きの方法には A. 加熱による方法、B. 水晒しによる方法、C. 発酵による方法の 3 種類があり、そのほかアンデス地方では凍結乾燥によるアク抜きも行われているが、わが国ではそれほど低温にはならないので、この方法は行われていない。

日本の民俗例では加熱と水晒しが中心であるが、このうち岐阜県白川村で行われているコナラのアク抜きの例を述べると

- ①採集したコナラの実をカラウスに入れて突き砕いて皮をむく。
- ②風を利用して皮と実を分離する。
- ③皮の取れた実（粗い粉状になっている。）は麻の袋に入れて、流水に 7 日間ほど浸す。
- ④大型の鍋に水を入れ、中央に竹で編んだ円筒形のスをたて、その外側に晒した実を入れて煮る。水加減は実がヒタヒタにつかる程度がよい。一昼夜以上の時間を掛けてゆっくりと煮る。しみ出したアクはスの中からヒシャクで汲み出す。水が減ってきたら継ぎ足す。
- ⑤アク抜きした実はソウケにあけ、水切りをした後、ムシロに拡げて 4 日間ほど陰干しにし、こうして食用にできるコナラの粉ができる。このようにして出来た粉に、現在は小麦粉を少し加えて熱湯でこね、セイロで蒸してダンゴをつくり、キナコなどをふりかけて食べている。

このようにどングりを食用にするには気の遠くなるような手間が必要であったが、縄文時代の人々はこのような手間をかけて食料を得ていたのであろう。

参考文献

- 牧野富太郎原著 大橋広好他編集 2008 『新牧野日本植物圖鑑』 北隆館
今村啓爾 1999 『縄文の実像を求めて』 吉川弘文館
小山修三 1984 『縄文時代』 中央公論社
橋本郁三 2007 『食べられる野生植物大辞典』 柏書房

「手作り紙芝居」を楽しく一練習の記一

北代縄文広場ボランティアの会
西村盛一

北代縄文広場のホームページに「縄文時代を学ぼう！手作り紙芝居」というコーナーがある。北代縄文館には、女性ボランティアの方々が作成した『北代縄文人の暮らし』という紙芝居が従来からあった。縄文時代のある家族を中心にムラの人々の暮らしの様子をわかりやすく紹介したもので、主に女性ボランティアが展示解説や土器づくり体験の合間に読み聞かせをして好評だった。

さらにこのたび『北代ムラのイカル少年』と題する新しい紙芝居が登場した。こちらはボランティアの山口督さんが、初めは絵本として創作され、さらに紙芝居に仕立て直された新作である。内容は北代の縄文ムラに住む少年イカルの体験を通して、ムラの人々の四季の生活を紹介したものである。

両作品ともに、縄文時代の暮らしの実際が生き生きとした絵で表現されており、当時の住居や食事、道具や衣服、土器づくりはもちろん、木の実や山菜の採集、魚獲りや獣の狩りの様子が美しい背景のもとに描かれている。縄文時代に特徴的な祀りやまじないの世界にも触れている。どちらも絵を見て物語を聞いているだけで自分が縄文時代にタイムスリップしたような気分になる。ドラマチックな筋立ても効果があるようだ。対象の一応の目安は「縄文人の暮らし」の方が小学校低学年向き、「イカル少年」が高学年向きとしているが、多少の用語や言い回しの違いがあるだけで内容的にはほとんど同じ水準と見てよいだろう。むしろ大人だって、展示室の解説だけではイメージがいま一つの事柄が、この紙芝居を見れば、まさに「ナルホド」と納得できること請け合いである。

さて、これまでは紙芝居はどちらかと言うと女性ボランティアの皆さんの名調子にお任せであった。しかしながら2作品に充実したからには私たち男性陣も知らぬ顔をしているわけにはいかないと考えた。特に私は一度見せてもらっただけで、一回も自分で読んだことがない。これではいけない、練習しておかなくてはと思った次第である。そこで、過日独りで眺めていたら、居合わせた大ベテランの中林伸男前会長や平野昭夫さんが、「声を出して実際にやってみられ」と激励された。それではというわけで、大きな声で本文を読み、其れに合わせて紙芝居の絵を引き抜く動作を練習した。私は、文章の朗読には多少の自信があったのだが、やはり何回かつつかえたり、読み間違ったりの箇所があった。中林さんからは「間違えてもそのままアドリブで続けなさい」と親切なアドバイスも受けた。

稽古を通して、この個所は少し間合いをとれば良いかな、ここは元気よくやったら臨場感が出る面白いところだななどと手ごたえを感じることができた。

この紙芝居を大いに活用すれば、これまで以上に親しく楽しく縄文を理解することにつながるだろう。最新の設備を備えた立派な博物館にもない、一味違う北代ならではの学習と交流の場が生まれるかも知れないと思うのである。

北代縄文通信 第34号 編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
富山市愛宕町 1-2-24 TEL:076-442-4246 FAX:076-442-5810

富山市北代縄文広場 富山市北代 3871-1 TEL・FAX:076-436-3664